

和
下

野史資料

吳長才百七勝隊

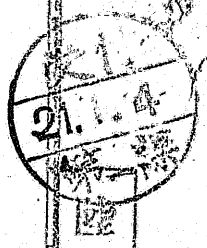
吳三入隊

戰車平隊

橋身砲平隊

迫擊分一中隊

迫擊分三平隊



軍

(新刊)

1315

戦果資料

歩兵第百七聯隊營二大隊 南原分隊九ノ島

第一大隊長陸軍少佐伊藤 健

一、編成整備関係

八、自衛隊司令部に属する部隊の編成人員

大隊並、編制五一員別紙詳制表に如し

聯隊編制改正ニ基テ、後續部隊トシテ左ノ諸隊本ノ島

三到着ニタルニ、聯隊主力ニ進又シ許サスホナリ島ニ

於テ獨ニ混成隊トシテ指揮下ニ在テ作

戦ス

TK一甲隊、三機隊、衛生隊、一中隊、MA一隊隊

二、聯隊職員表別紙に如し

三、柱石ノ関係

邦人並、渡邊、人、朝鮮人等、泰、兵、テ、農、業、ヲ、シ、テ

昭和十六年一月十日南洋分三支隊、ホラへ急襲、
備、任、以、下、到、夏、付、心、ヤ、ル、後、戰、斗、に、関、し、第、三、支
隊、長、ハ、指、揮、之、度、テ、該、島、北、地、に、守、備、ヲ、担、任、し
極、力、以、て、備、察、訓、練、対、空、機、手、等、に、任、ズ

四、海軍準備其要

1. 海軍計画、概要

大塚ハ、ホラへ島の北地区(北方面ホラへ島の要域ヲ指シ、
担、任、シ、火、力、ノ、重、兵、ヲ、ホラへ水道北岸海上ニ指向シ
敵、ヲ、水、上、並、ラ、得、ル、モ、水、際、ニ、專、權、ス

防衛取備、概要別紙要旨、如シ

八、陣地、状況

1. 起工時期、昭和十六年一月十五日起(北地区係トシテ)

2. 使用人員(作業人員毎月平均一千名)使用資材

3. 金、無、補、給、下、ニ、於、テ、現、地、応、用、材、料(立木

修理却、新築家は是等、新築

の完成時状及深度

昭和三十九年三月、新築地を以て是れ、新築地、新築

昭和三十九年三月、新築地を以て是れ、新築地、新築

昭和三十九年三月、新築地を以て是れ、新築地、新築

昭和三十九年八月、新築地を以て是れ、新築地、新築

(三) 散放土、破壊、補修状況

昭和三十九年二月以降、散放土、破壊、補修状況、新築地、新築

昭和三十九年二月以降、散放土、破壊、補修状況、新築地、新築

昭和三十九年二月以降、散放土、破壊、補修状況

昭和三十九年二月以降、散放土、破壊、補修状況、新築地、新築

昭和三十九年二月以降、散放土、破壊、補修状況、新築地、新築

昭和三十九年二月以降、散放土、破壊、補修状況、新築地、新築

昭和三十九年二月以降、散放土、破壊、補修状況、新築地、新築

省署又

軍需品に集積水産

軍需品に際し、新設飛行機ハ、敵空線ヲ顧慮シ

極力分散積納ス。部隊ニ於テ之ヲ杖行シテ予倉

庫ヲ構系ス（糧食ノ敵下）

糧食積納右ノ月ニ其洞窟積納シテ十備セリ

昭和十九年一月以降、全ク無補給ノ状態ニ陥ル

四月ヨリ自活農作（甘藷栽培）ヲ以テ先ツ一人

十坪月標、周廻墾シテ其後、昭和二十年一月ヨリ更に十

坪ヲ増和シ一人百坪月標ニ昭和二十年六月頃概不

之ヲ完成ス

昭和十九年七月以降、全社一社人等ヲ以テ終表スル

ト其終表ノ至リ、八月ヲ迄テ信知スルト一人百坪

一社ノ前後、昭和十九年十一月ヲ以テ、昭和二十年四月

増ヨリ漸ク一人ノ量ニ於テ終ニ此ヲ得ル事

其ノ製器法 製器ノ法 魚粉ノ製法 醬油ノ製法 製糖ノ法

等ノ之類ノ法 諸國ノ材料トシテ不実(セシムル代用)

製法トス

五 訓練ノ状況

上達此亦同島ノ守備ニ必要ナル戦斗法ノ研究ニ努

メ 昭和十九年前期ノ各師ノ動作ヲ訓練ニ従テ

示テハ之カ訓練ト小隊以下ヲ以テスル小部隊ノ訓練

並ニ夜間切込法、夜間潜入術、夜間潜入掃蕩術

等ノ同様ノ訓練 我軍内通及専訓練軍士ノ養成ニ

並ニ二十年度主トシテ前記各斗法ノ練習ヲ進

行スル事トシテ努力ナス

五 戦斗状況

大要トシテ主要部隊(為牛)ノ概要

陸軍

昭和十九年二月以後連日東京警備隊(十機由外
二機五機空軍機警備隊より出動し空軍機中より空機云

(要知度)

二機動警備隊東京警備隊

昭和十九年五月二月日海軍連合機連一二八機東京

警備隊之二月日海軍連合機連一二八機東京

艦船四十数隻東京警備隊一〇〇機連日海軍連一二八機東京

二機動警備隊東京警備隊

二機動警備隊東京警備隊

昭和十九年二月以後連日東京警備隊(十機由外

二機五機空軍機警備隊より出動し空軍機中より空機云

(要知度)

二機動警備隊東京警備隊

昭和十九年五月二月日海軍連合機連一二八機東京

納山丸・京東

分割撮影ターゲット

分割した 原稿の 撮影順序	<table border="1" data-bbox="651 591 1209 981"><tr><td data-bbox="655 598 927 723">1</td><td data-bbox="927 598 1204 723">2</td></tr><tr><td data-bbox="655 723 927 848">3</td><td data-bbox="927 723 1204 848">4</td></tr><tr><td data-bbox="655 848 927 974">5</td><td data-bbox="927 848 1204 974">6</td></tr></table>	1	2	3	4	5	6
1	2						
3	4						
5	6						
分割撮影 した理由	A 3 版 以上 の た め						
図・表等名	歩兵第107連隊第2大隊 編制改正の為の人員充足表						
上記のとおり分割撮影したことを証明する。							

附表第五

步兵第七聯隊第二大隊編制表

小計	第二大隊				第一大隊				中隊別部	被配屬人員	被配屬人員	被配屬人員	
	小隊	第二中隊	砲兵	第六中隊	第五中隊	步兵	步兵	大隊本部					
准曹 1 曹 1 下 1 兵 1 給 1 分 1 兵 1 瓦 1 傳 1 紅 1 2 2 1	准曹 1 曹 1 下 1 兵 1 給 1 分 1 兵 1 瓦 1 傳 1 紅 1 2 2 1	木 1 火 3 多 2 木 2 伝 2 兵 23 瓦 3 TL 5 観火 1 多 1 伝 2 兵 17 (TAT 兵 30)	同 右	同 右	准曹 2 曹 1 兵 1 下 1 兵 1 給 1 下 1 兵 1 瓦 1 傳 1 紅 1 2 2 1	准曹 2 曹 1 兵 1 下 1 兵 1 給 1 下 1 兵 1 瓦 1 傳 1 紅 1 2 2 1	紅 下 3 兵 1 書 暗 下 1 兵 下 1 兵 瓦 下 1 下 1 G 3 G 瓦 2 G 暗 4 G 傳 10 G 空連 5 T 下 1 T 輸 1 T 兵 50 兵技 下 1 主 下 1	紅 下 3 兵 1 書 暗 下 1 兵 下 1 兵 瓦 下 1 下 1 G 3 G 瓦 2 G 暗 4 G 傳 10 G 空連 5 T 下 1 T 輸 1 T 兵 50 兵技 下 1 主 下 1	技 下 1 主 下 1 紅 下 3 紅 連 5	書 暗 下 1 兵 下 1 G 下 1 G 瓦 2 G 暗 2 代 傳 10 空連 5 T 下 1	曹 2 瓦 下 1 LG 下 14 MW 下 1 MG 下 1 Zid 下 1 兵 46 瓦 3 組 12 瓦 3 G 下 1	曹 2 瓦 下 1 LG 下 14 MW 下 1 MG 下 1 Zid 下 1 兵 46 瓦 3 組 12 瓦 3 G 下 1	曹 2 瓦 下 1 LG 下 14 MW 下 1 MG 下 1 Zid 下 1 兵 46 瓦 3 組 12 瓦 3 G 下 1
6 5 (7)	11 8 (47)	19 1 (24)	19 1 (24)	1 9 (24)	9 0	7 2	7 3	5	5	5	5		
LG 1 LM 1 A 1 G 3	G 19 GIP 3	GIP 5 GIP 1 下 1 傳 1 LGIP 3 MWIP 1 傳 1 (GIP 2)	MW 1 傳 2 Zid 7 瓦 1 傳 1 LG 兵 30 紅 3 (LG 8) (MW 2) 傳 2 瓦 3 組 12	MW 1 傳 2 Zid 7 瓦 1 傳 1 LG 兵 30 紅 3 (LG 8) (MW 2) 傳 2 瓦 3 組 12	G 3 紅 4	MW 1 傳 2 Zid 8 瓦 1 傳 1 LG 兵 37 MW 下 1 GIP 10 GIP 1 傳 1 MW 1 瓦 1 傳 1 瓦 1 傳 1 瓦 1 傳 1 瓦 1 傳 1	MW 1 傳 2 Zid 6 瓦 1 傳 1 瓦 1 傳 1 瓦 1 傳 1 瓦 1 傳 1	MW 1 傳 2 Zid 6 瓦 1 傳 1 瓦 1 傳 1 瓦 1 傳 1	MW 1 傳 2 Zid 6 瓦 1 傳 1 瓦 1 傳 1 瓦 1 傳 1	MW 1 傳 2 Zid 6 瓦 1 傳 1 瓦 1 傳 1 瓦 1 傳 1	MW 1 傳 2 Zid 6 瓦 1 傳 1 瓦 1 傳 1 瓦 1 傳 1	MW 1 傳 2 Zid 6 瓦 1 傳 1 瓦 1 傳 1 瓦 1 傳 1	
4	2 2	1 3 (2)	(LG 3) 4 (MW 4) 2	1 3 6 (10)	3	3	1 9 6	3	3	3	3		
G 13 組 6 傳 2	G 13 組 6 傳 2	GIP 3 LGIP 7 MWIP 2	(LG 3) 4 (MW 4) 2 MW 20	(LG 3) 4 (MW 4) 2 MW 20	G 3	MW 1 傳 2 Zid 6 瓦 1 傳 1 瓦 1 傳 1	MW 1 傳 2 Zid 6 瓦 1 傳 1 瓦 1 傳 1	MW 1 傳 2 Zid 6 瓦 1 傳 1 瓦 1 傳 1	MW 1 傳 2 Zid 6 瓦 1 傳 1 瓦 1 傳 1	MW 1 傳 2 Zid 6 瓦 1 傳 1 瓦 1 傳 1	MW 1 傳 2 Zid 6 瓦 1 傳 1 瓦 1 傳 1		

6 15 = 24 63
 73 7
 18 15

一七 TA 下士
 一七 TA 下士
 一七 TA 下士

六 () 内 () 内、数字、假配属、人員ヲ示ス

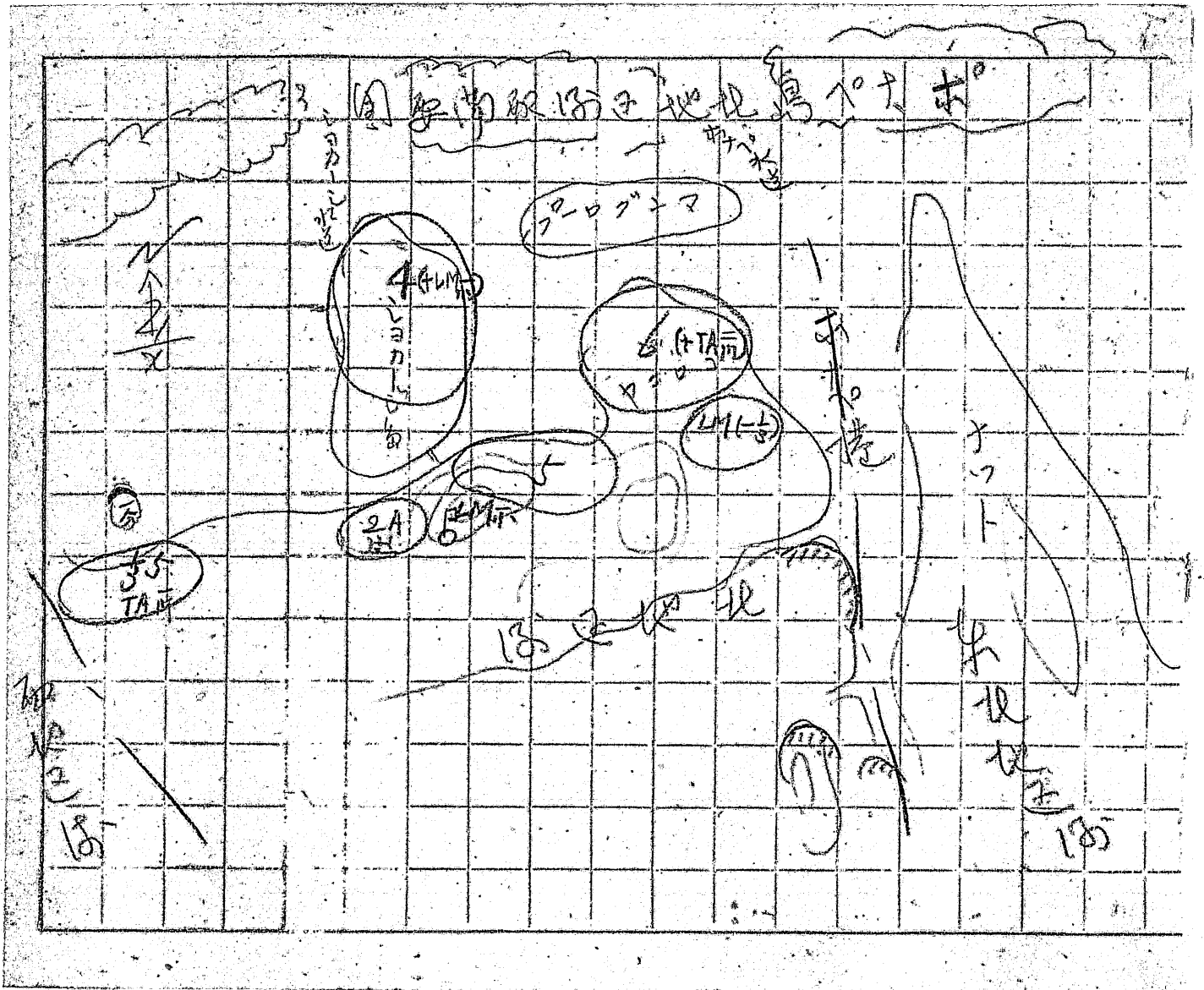
員外者
 トシテ
 八 定員外
 七 備考第

一九六	六	1 紅	5 ITL R TA代 G 三		4 G.LM代3 "LM代3	22 G 13 組 傳 2 夕	(一三) (一五)	GIP 1 "GIP 1 LGIP 3 MWIP 1 "GIP 1 (GIP 2)	(一) 伊藤		
一九五	五						(九) (一五三)	GIP 3 LGIP 7 MWIP 2 "GIP 1 (LGIP 2)	下二 (花岡)	(LG 3) (MW 4)	G 1 傳 2 夕 3 傳 2 Zid 6 夕 1 傳 1 紅 3
一九六	六	1 紅	4 ITL R TA代 G 三	LG夕 MA	6 MWR LM代1 LG夕 LM代1 LM代1 LG木 LM代1 LG伝 LM代3 LG LM代1	22 G夕代1 G夕代1 G夕代1 G夕代1 夕 3 夕 3 夕 2 夕 1 夕 1 夕 5 Zid 6	(三七) (二四)	GIP 2 "GIP 2 "組IP 2 "木IP 1 LGIP 1 MWIP 3 (GIP 1)	下二 (梅田大自方)		
一九六	五	1 紅	4 ITL R TA代 G 三	1	8 MWIP LM代1 G.LM 3	121 G 2 "IP代2	(九) (一五三)	GIP 3 "GIP 1 "GIP 1 LGIP 3 (GIP 1) (LGIP 1) MWIP 3	下 (袖本)		
一九七	三	1 紅	4 ITL R TA代 G 三	MA 18 "互代 4 下二	4 MA LM代 17	25 MG "互	(三二) (七)	紅 1	山野書長	(MG TA代 14)	BIAM MG "夕 "夕 傳 (MG) Zid "ラ
一九七	三	1	3 ITL R TA代 G 三	"木MG 1 "ソ 1 "傳 2 紅 1	29	26 夕代 1 "ホ 1 MAソ 1 "伝 2 "互代 3 Zid代 3 MAソ 1 G夕代 1			(MG TA代 下二)		

鍛工 狙撃手 七 備考第一項、附表、聯隊規定、附表

八 定員外者、衛生兵、旧所属、儘新編成中隊、定員外
 トシテ依配属シ旧中隊、衛生兵、大隊本部、定員外者トシテ依配属ス

一九六	五	1	4	MA 18 "瓦代 4	二九	4	25	12 (2)	紅 1 山野曹長 (MG TA代 14)	MG TA代 下三
一七七	三三	1	3	R へ 東田新軍曹 " 早瀬軍曹 " 森川伍長	四七	21	26	2	(16)	(MG TA代 下三)
一四七	三	1	2	R へ 納谷曹長 " 朴木軍曹	一四五	4	7	2	TA 23 (TA 13)	下二 (TA)
一二四		4	2			15	7	11	TA 2 LM 4 BIA 2 " TL代 2 (備)	下二 (TA)
130	58	6	22	30	274	5.8	216	65 (7)	93 (17)	TA 7 " BA 7 " 田口曹長
1178								846	118 (47)	
編成人員ニ對シテ六名不足 格取内ノ人員ハ合計ニ合シム		編成人員ニ對シテ六名過剩		不足一(曹)ハ 小西軍曹ヲ以テ兼 務セシム		不足五中 准尉 曹長各一名ハ 柴木曹長ヲ以テ兼 務セシム 鏡ニ對シテ不足				



戰史資料

調製官

陸軍中隊長
陸大尉 越後春雄

步兵第百七聯隊戰車中隊 (赤木島)

一 編成裝備關係

一 自己部隊及關係部隊、編成人員兵器彈藥

一 步兵第百七聯隊戰車中隊

人員 隊長三 准尉一 曹長一 單位一四 兵四五

兵器 九五式下九、トコト自動貨車一 (内紅生兵一)

試製水陸兩用自動貨車一

小銃 四四 拳銃 一六

九八式三耗砲彈 徹鋼彈 榴彈 五四

九七式車載機筒銃 完包 徹鋼彈 一八〇〇〇

同 普通 三五〇〇〇

2. 職負表

中隊長 越後中尉(大尉) 第百七聯隊長 中島少尉(大尉)

第二小隊長 加藤少尉(中尉) 括弧内は終戦時階級

3. 人員兵器ノ増減関係

人員負

輸送艇内ニ於テA型バラスフス又完全ノ為ランガル

島ニ上陸隔離中昭和十九年二月廿五日下午七時官以

下名爆死、同四月十四日兵一ホナへ本島ハルキル

ニ於テ爆死計八名戦死

内地待命間下士官一交通事故ノ為受傷

鐵道輸送中横松陸軍病院ニ入院

兵器

戦車 突包射撃(約百發以時)ニ依り砲塔及装

甲板ニ亀裂ヲ生ズ

水陸両用自動貨車

高濕ト燃料不足ノ為運行困難ナル状

ニ程度程底下ス

其他増減ナシ

4. 台湾人其他使役ノ關係

ナシ

三. 部隊復テノ概要

昭和十八年十一月十五日習志野戦ニ於テ編成

完結ホナヘ島ニ先進シアリシ聯隊本部ニ追及ス

昭和十八年十二月二十四日岸占出サ役昭和十九年二

月五日ホナヘ島上陸 昭和二十一年十一月十八日同島

出サ役同月二十一日浦賀ニ於テ復身完結

三. 指揮隸屬關係及其変更ノ概要

昭和十九年二月五日陸軍同時南村中隊ニ支隊長ノ

指揮ニ入り終戦ニ到ル

隸屬關係変更ナシ

四 作戰準備関係	一 作戰計画概要	島嶼防禦ニシテ敵ノ主攻ト予想セラルル北	西方面ニ核動ヲ準備シ敵ヲ水上止ムヲ得サルモ	水降ニ慮減スル如ク計画スル	二 陣地状況	一 起工時期 上陸同時	所要人員 中隊全カ(五五名)	使用資材 現地木材 其他現地物資	口 完成時期及強度 未完、強度中	八 敵攻惠之依り破壊及補修状況	ナシ	三 作戰準備之度スル主要ナル命令	四 軍需品ノ集積状況
----------	----------	---------------------	-----------------------	---------------	--------	-------------	----------------	------------------	------------------	-----------------	----	------------------	------------

編成時携行セル装備兵器燃料彈藥及二月分
ノ糧秣ノ外追及品ナク現地ニ於テハ通出ル倉
庫ナク又防空ノ為乾燥地ノ選擇困難ニシテ
此ノ点ジ横穴及地上倉庫ニ移動セリ
現地自活

經理核對ナク現地ノ物資買入困難ナル為初期ニ
於テ非常ナル困難ニ遭遇セルモ中期以後概不
良好トナリタルモ海産物ハ依然他部隊ニ比シテ
手僅少ナリキ

5 練成ノ状況

兵種本然ノ訓練ハ補給ノ絶無ト戰車ノ故障
ノ為不十分ナリシモ其他ハ概不良好ナリキ

五 戦斗状況

1. 参加セル主要ナル作戦ノ概要

1	ホナヘ島守備、ホナヘ島対空戦
2	機動部隊未襲伏見 昭和十九年五月二日終日艦船四十数隻ノ射撃ヲ受ス 其他多数艦船ノ未攻ナシ
3	敵機ノ未襲伏見 昭和十九年二月ヨリ大中小型機編隊及單機ノ未襲アリ爆、銃、毒、焼毒攻撃ヲ受ス
4	敵機ノ損傷 詳細不明（独立混成旅団報告ニ照ス）
5	給養、衛生、不良
6	終戦ヨリ敗退迄ノ行動 交戦中軍隊区分ヨリ駐屯、自治、農耕作業
7	軍紀訓練、体育、公民教育ヲ實施ス

彙史資料

步兵第七聯隊機銃砲中隊長陸軍大尉小谷 綱見

第 編成 裝備 關係

一 自己部隊 編成

二 編成人員 七十四名 三 小队

2 兵器 彈藥 九八式高射機銃砲 六挺

左右 彈藥 六〇〇〇発

3 將校職員表 (昭和十年十月百調)

職名	官等	氏名	出身別	現官等級年限
中隊長	大尉	小谷 綱見	幹候	共〇年三十一月一十七日
第一小隊長	中尉	樽野 湊	軍志願	〇、三、一、一
第二小隊長	中尉	大原 八郎	幹候	〇、三、一、一
第三小隊長	中尉	栗林 新一	幹候	〇、三、一、一

兵人員、兵器等、増減對傳

1. 人員 自昭和十九年十月 四名、減内、老弱病死、右、新履

2. 彈藥 自昭和十九年十月 射擊彈 〇〇〇〇發

自昭和十九年十月 射擊彈 一〇〇〇〇發

第三 部隊復原之概要

1. 昭和十九年十月 續前、完結

2. 昭和十九年十月 南洋諸島派遣、支、中島、港、出、發

3. 昭和十九年二月 本島、港、上、陸

自昭和十九年十月 本島、港、上、陸、指揮、下、在、任

本島、港、上、陸、指揮、下、在、任

自昭和十九年十月 本島、港、上、陸、指揮、下、在、任

第三 指揮部之復原

自昭和十九年十月 指揮部、復原、概、要

本島、港、上、陸、指揮、下、在、任

2. 自昭和九年八月 歩兵第百七師団第三大隊長指揮官ニ在リテ

備員業務ニ従事

歩兵四師団駐備南関守 (別紙要圖ノ如ク)

1. 作戦計画概略

2. 防地ノ状況

3. 訓練ノ状況

第五戰鬥状況

1. 自昭和九年五月至九年六月ノ概要

自昭和九年五月十日起 第一本隊ノ島村空襲ヲ

以テ自昭和九年五月十日 第二次本隊ノ島村空襲ヲ

2. 敵機ノ來襲状況

自昭和九年五月十日 間 連日ノ如ク敵機 乃至敵機ノ機

編隊ヲ以テ來襲ス

特ニ空襲ノ頻シカリニ 自昭和九年五月 間ニ至リ此ノ間

(日本ノ一助)

毎日千部持ノ野燻連合及終日ニ亘ル五十持 程度ノ野燻持 末後ノ持ニ五月一日ノ如ク持初部際 同クケラシテ野燻持ヲ古所ニ忠一ノ部ヲ持 末後ヲ 見ル	末後持控ノ区別在ノ如ク	野燻持 和ノトシニホト クラマシ 日無多シ	野燻持 イニアメカシ 日無多シ	コソリケイニホト ニーケシ 日無多シ	ホーケシ ニーケシ 日無多シ	信守持 ニーケシ 日無多シ
---	-------------	-----------------------------	-----------------------	--------------------------	----------------------	---------------------

P314 P347 P317 P326 P324 P325 P381 F443 F447

陸軍

第六給養衛生

現地自給之見

第七、終戦ヨリ歸還迄ノ行初ノ概

終戦ノ時、中ノ第百七聯隊第ニ中隊長ノ指揮下ニ入り
遂次命令セリ計見ニ基キ兵ヲ為彈藥ノ還納ヲ實施
一方米軍ヨリノ計画ニヨリ中隊地帯ノ整理ヲ實施ス

別紙書目

方針 中隊主力ヲ以

以テ 337 高地ニ

階堂ニ修ス

ノ 公平儿山 263 標高東北側ニ一部ヲ

階堂ノ古砲臺 主トシテ 第一第二砲隊ヲ

(内 200 歩 第七第二砲隊 砲臺 1 基)



陣地構築状況

公平儿山 及 337 高地ニ砲臺 其ノ附近ニ是南陣地

ヲ構築 砲臺 構築ス

陸軍

戦史資料 吉野重吉中隊長

吉野重吉

二編成部隊関係

一前部隊編成人員 兵器 弾薬

指揮班 1 中隊長 14

観測班 1 射撃班 12 構成

通信班 1 射撃班 24 指揮班 1

司令 5 計 155 97 器材 24 97 4000

二 戦隊隊員 35 隊

一 5 隊 4 中隊長 10 12.3

2. 職員表

中隊長 中尉 吉野重吉

指揮班長 中尉 水出 昌隆

第一中隊長 1 隊 隊部 吉野重吉

(日本書紀)

<p> 東三隊長一申尉 久健少司 </p>	<p> 了人真兵曹等ノ増減附條 </p>	<p> 大真編成當時總數一五五名 </p>	<p> 減 輸送運兵 宇留一 小入 兵二 </p>	<p> 現地 戦死(傷死) 兵一 </p>	<p> 内還(負傷) 兵一 </p>	<p> 由還(遺棄) 兵八(戦死後) </p>	<p> 兵數 増減ナシ </p>	<p> 但己現地ニ所屬者却降者少銃ニ五 </p>	<p> 金津東下五〇名 若煙前ノ五 交付ナシ </p>	<p> 現地修兵使渡岡條 </p>	<p> 陸地備兵之為 小入島 位兵 三約十七名 </p>	<p> 津用ノ一帯 銀金等付 二二五名 </p>
--	------------------------------------	-------------------------------------	---	-------------------------------------	----------------------------------	---------------------------------------	--------------------------------	--	---	---------------------------------	--	--

二 部隊變遷の概要

1. 昭和十一年軍令陸軍第九五号に依り、歩兵第五師團の部隊
 編成は、第一師團に編成命令を以て、直轄第一師團に於
 て昭和十一年十月一日より編成完了

2. 同令第十百二十四号(平)に依り、歩兵第五師團の部隊
 編成は、第一師團に編成命令を以て、直轄第一師團に於
 て昭和十一年十月一日より編成完了

3. 昭和十一年十月一日より、島の上陸歩兵第五師團長
 指揮下に入る

4. 同令第二百十六号(陸)に依り、東部地区に於ける部隊の
 編成は、第一師團に編成命令を以て、直轄第一師團に於
 て昭和十一年十月一日より編成完了

5. 同令第二百十六号(陸)に依り、東部地区に於ける部隊の
 編成は、第一師團に編成命令を以て、直轄第一師團に於
 て昭和十一年十月一日より編成完了

6. 同令第二百十六号(陸)に依り、東部地区に於ける部隊の
 編成は、第一師團に編成命令を以て、直轄第一師團に於
 て昭和十一年十月一日より編成完了

7. 同令第二百十六号(陸)に依り、東部地区に於ける部隊の
 編成は、第一師團に編成命令を以て、直轄第一師團に於
 て昭和十一年十月一日より編成完了

8. 同令第二百十六号(陸)に依り、東部地区に於ける部隊の
 編成は、第一師團に編成命令を以て、直轄第一師團に於
 て昭和十一年十月一日より編成完了

9. 同令第二百十六号(陸)に依り、東部地区に於ける部隊の
 編成は、第一師團に編成命令を以て、直轄第一師團に於
 て昭和十一年十月一日より編成完了

10. 同令第二百十六号(陸)に依り、東部地区に於ける部隊の
 編成は、第一師團に編成命令を以て、直轄第一師團に於
 て昭和十一年十月一日より編成完了

(日本外史)

此戰迄、其の要(要)は

右指揮關係

昭和三年二月五日、おろ島上陸、歩兵隊、中隊、

國長指揮下に入る

昭和九年二月五日、独立歩兵隊第三四三三隊、中隊、

力(少隊)等

他、一少隊、独立混成隊第三四三三隊、所屬、せりし

終戦迄、其の要(要)は

5. 渡島半島、昭和三年十二月四日

中隊、池田、出島、おろ島(コロシヤ)方面、移動

6. 十月八日、米上陸、用舟艇、母艦、二隻、おろ島

出島

7. 同月、浦賀、港上陸

8. 同月、三浦、港上陸

四 (一) 防衛方針

古隊防衛の重要は、作直に海軍防衛に配属せしめ
よ。少隊戦斗は、協力を求む。敵舟艦研ヲ水中に
降之於テ之ヲ擊滅セントス。

配備

獨立混成大隊は、中少部隊に配属し命令せらる。

大隊防衛の重要は、海岸の要害に陸地中隊

の主力の配置を主とし、トライバル方面に一部

ヲ配置し、方向に火力を配置ス。

一部は、各分隊の中心に配置し、(トライバル) 木林に

配置し、海岸と陸地を方向に火力を配置ス。

其他に少隊ヲ別個に大隊(少隊)に配属ス。

(日本ノ一歩)

五、戰鬥状況

1. 參加者主要著作戦(戰鬥)の概要

昭和五年三月三日付子(五日)自(向)三(五)了(先)次

及(弟)二(次)お(大)島(討)撃(戦)斗(二)了(加)せ(又)討(撃)火

器(ヲ)自(身)以(テ)直(接)交(戦)せ(し)了(也)

2. 機動部隊本態状況

昭和五年三月三日機動部隊本態又

3. 敵機本態状況

昭和五年三月三日自(向)以(降)連(日)編(隊)以(テ)自(二)四(一)

三(回)三(回)り(燒)死(傷)及(爆)撃(ヲ)及(復)漸(次)鏡

砲(車)三(輛)同(日)七(日)以(降)本(態)漸(次)減(少)終(了)

子(一)二(回)自(身)偵(察)止(了)

4. 敵機 = 討(撃)了(了)以(テ)持(守)其(他)也(也)

(日本ノート)

陸軍

野砲隊

400 100 100 100 100 100 100 100 100 100

400 100 100 100 100 100 100 100 100 100

1 野砲隊

1 野砲隊 100 100 100 100 100 100 100 100 100 100

1 野砲隊 100 100 100 100 100 100 100 100 100 100

1 野砲隊 100 100 100 100 100 100 100 100 100 100

1 野砲隊 (100)

1 野砲隊 100 100 100 100 100 100 100 100 100 100

1 野砲隊 100 100 100 100 100 100 100 100 100 100

1 野砲隊 100 100 100 100 100 100 100 100 100 100

1 野砲隊 100 100 100 100 100 100 100 100 100 100

1 野砲隊 100 100 100 100 100 100 100 100 100 100

1 野砲隊

1 野砲隊 100 100 100 100 100 100 100 100 100 100

1 野砲隊 100 100 100 100 100 100 100 100 100 100

1 野砲隊 100 100 100 100 100 100 100 100 100 100

1 野砲隊

1 野砲隊 100 100 100 100 100 100 100 100 100 100

1 野砲隊 100 100 100 100 100 100 100 100 100 100

1 野砲隊 100 100 100 100 100 100 100 100 100 100

1 野砲隊 100 100 100 100 100 100 100 100 100 100

1 野砲隊

1 野砲隊 100 100 100 100 100 100 100 100 100 100

1 野砲隊 100 100 100 100 100 100 100 100 100 100

1 野砲隊 100 100 100 100 100 100 100 100 100 100

1 野砲隊 100 100 100 100 100 100 100 100 100 100

1 野砲隊 100 100 100 100 100 100 100 100 100 100

陸軍

陸軍省

陸軍

陸軍省 陸軍省 陸軍省

陸軍省 陸軍省 陸軍省

陸軍省 陸軍省 陸軍省

陸軍省 陸軍省 陸軍省

陸軍省

陸軍省 陸軍省 陸軍省

陸軍省

陸軍省 陸軍省 陸軍省

陸軍省 陸軍省 陸軍省

陸軍省 陸軍省 陸軍省

陸軍省 陸軍省 陸軍省

陸軍省 陸軍省 陸軍省

陸軍省

陸軍省 陸軍省 陸軍省

陸軍省

陸軍省

陸軍省 陸軍省 陸軍省

陸軍省 陸軍省 陸軍省

陸軍省

陸軍省

陸軍省 陸軍省 陸軍省

陸軍省

陸軍省

陸軍省 陸軍省 陸軍省

陸軍省 陸軍省 陸軍省

陸軍省

日本ノ一

浦賀上陸地支局

(昭和二十年十二月二十日)

実地調査参考資料報告

所在地	所属部隊	職官	備考
南相模野島	歩兵第百七聯隊	戦車中隊長 陸軍大尉 越後 春雄	終戦時ノモ ウ記ス
支那事変 以降ニ於ケル 自己ノ略ヲ	昭二二、三、七、五、騎兵第ニ聯隊 昭二四、三、三、捜索第ニ聯隊 昭二四、四、四、武昌ニ上陸 昭二五、五、五、取月聯隊 昭二六、六、六、捜索第ニ聯隊 昭二六、六、六、捜索第ニ聯隊 昭二七、七、七、捜索第ニ聯隊	昭二二、三、七、五、騎兵第ニ聯隊 昭二四、三、三、捜索第ニ聯隊 昭二四、四、四、武昌ニ上陸 昭二五、五、五、取月聯隊 昭二六、六、六、捜索第ニ聯隊 昭二六、六、六、捜索第ニ聯隊 昭二七、七、七、捜索第ニ聯隊	職ノ變更及 五ニルニ加 戦手名ヲ 記ス
所属部隊 編成年月日 及編制裝備 ノ概要	歩兵第百七聯隊戦車中隊(昭二八、二、一五編成)	一、編成 二、裝備 三、試製水陸両用自動車	最終ノ所 屬部隊ヲ 以テノ所 屬部隊ノ 介テノ概記 ス
所屬部隊作 戦經過ノ概 要	昭和十八年九月加太島守備ノ為先登 本營歩兵第百七聯隊ニ退及ニ月加太島ニ上陸 先登艦ニ乗リハクシテマニシテ方面ニ転進シ同島ニ 在リ南相模野島長ノ指揮下ニ入り同島守備ニ任 昭二二、三、三、歩兵第百七聯隊第ニ大隊長ノ指揮下 入り同一任務進行中終戦ニ至ル	昭二二、三、三、歩兵第百七聯隊第ニ大隊長ノ指揮下 入り同一任務進行中終戦ニ至ル	自活農園作業、軍紀訓練、体育、公及 教育等々實施ス 歸還輸送ニ米艀ニ及下七三号ニ 依リ特記事項ナシ
終戦(又ハ主 力ノ戦ヲ終 了)後ノ状況	自活農園作業、軍紀訓練、体育、公及 教育等々實施ス	歸還輸送ニ米艀ニ及下七三号ニ 依リ特記事項ナシ	歸還輸送 ノ状況ヲモ 併記ス
帰郷(又ハ連 絡)先	福島縣	[Redacted]	[Redacted]
其他ノ参 考事項	[Redacted]	[Redacted]	[Redacted]

浦賀上陸地支局

(昭和二十年十二月二十日)

史実調査参考資料報告

所在地	南洋群島中ノ島	職官	中隊隊長 浦賀 三郎	摘要
所屬部隊	第百七聯隊	氏名	浦賀 三郎	職ノ変更及 五ノル参加 戦ノ名ヲ 記ス
支那事変以降ニ於ケル自己ノ略シ	昭和十二年七月一日 昭和十五年一月五日 昭和十八年九月五日 昭和十九年十一月五日 昭和二十年十一月五日		昭和二十年十一月五日 昭和二十年十一月五日 昭和二十年十一月五日 昭和二十年十一月五日 昭和二十年十一月五日	職ノ変更及 五ノル参加 戦ノ名ヲ 記ス
所屬部隊ノ編成年月日及編制裝備ノ概要	進軍甲隊 編成 昭和十八年十一月五日 定員 十五名 編制人員 一五〇名 (可) 隊員 一五〇名 (可) 中隊 附 隊員 一五〇名 (可) 隊員 一五〇名 (可) 隊員 一五〇名 (可)		昭和十八年十一月五日 昭和十八年十一月五日 昭和十八年十一月五日 昭和十八年十一月五日 昭和十八年十一月五日	最長ノ所 属部隊ヲ 五ニシテ 以テノ所 属部隊ノ 介テモ 概記 ス
所屬部隊ノ戦經過ノ概要	中ノ島 西ノ島 南ノ島 北ノ島 東ノ島 南ノ島 西ノ島 北ノ島 東ノ島		昭和十八年十一月五日 昭和十八年十一月五日 昭和十八年十一月五日 昭和十八年十一月五日 昭和十八年十一月五日	最長ノ所 属部隊ヲ 五ニシテ 以テノ所 属部隊ノ 介テモ 概記 ス
終戦(又ハ主カ)戦中終了ノ状況	終戦後 戦時中 戦前 戦後 戦中 戦前 戦後 戦中 戦前 戦後		昭和十八年十一月五日 昭和十八年十一月五日 昭和十八年十一月五日 昭和十八年十一月五日 昭和十八年十一月五日	最長ノ所 属部隊ヲ 五ニシテ 以テノ所 属部隊ノ 介テモ 概記 ス
帰郷(又ハ連絡)先	連絡先		昭和十八年十一月五日 昭和十八年十一月五日 昭和十八年十一月五日 昭和十八年十一月五日 昭和十八年十一月五日	最長ノ所 属部隊ヲ 五ニシテ 以テノ所 属部隊ノ 介テモ 概記 ス
其他ノ参考事項				最長ノ所 属部隊ヲ 五ニシテ 以テノ所 属部隊ノ 介テモ 概記 ス

浦賀上陸地支局

(昭和二十年十二月二十日)

史実調査参考資料報告

所在地	金沢市	職官 中隊長 陸軍大尉 吉岡 巖夫	摘要
所屬部隊	歩兵第百七聯隊 迫撃第百一隊	氏名	職名
支那事変以降三ヶ年自己略す	一、昭和二十年十月十五日 二、昭和二十年十一月十五日 三、昭和二十年十二月十五日	一、昭和二十年十月十五日 二、昭和二十年十一月十五日 三、昭和二十年十二月十五日	職名 職名 職名
所屬部隊、編成年月日、及編制裝備、概要	一、昭和二十年十月十五日 二、昭和二十年十一月十五日 三、昭和二十年十二月十五日	一、昭和二十年十月十五日 二、昭和二十年十一月十五日 三、昭和二十年十二月十五日	職名 職名 職名
所屬部隊、戦經過、概要	一、昭和二十年十月十五日 二、昭和二十年十一月十五日 三、昭和二十年十二月十五日	一、昭和二十年十月十五日 二、昭和二十年十一月十五日 三、昭和二十年十二月十五日	職名 職名 職名
終戦(又八五)力、戦終了、終戦状況	一、昭和二十年十月十五日 二、昭和二十年十一月十五日 三、昭和二十年十二月十五日	一、昭和二十年十月十五日 二、昭和二十年十一月十五日 三、昭和二十年十二月十五日	職名 職名 職名
帰郷(又八連絡)先	一、昭和二十年十月十五日 二、昭和二十年十一月十五日 三、昭和二十年十二月十五日	一、昭和二十年十月十五日 二、昭和二十年十一月十五日 三、昭和二十年十二月十五日	職名 職名 職名
其他、参考事項	一、昭和二十年十月十五日 二、昭和二十年十一月十五日 三、昭和二十年十二月十五日	一、昭和二十年十月十五日 二、昭和二十年十一月十五日 三、昭和二十年十二月十五日	職名 職名 職名

浦賀上陸地支局

昭和三年十二月七日

支隊調査参考資料報告

所在地	職官	終戦時之
浦賀島	中隊長 大尉 佐藤 孝	与記ス
歩兵第百七聯隊	氏名	職変更及 主たる参加 戰鬥名ヲ 記ス
歩百七 内地勤務	白井 克信	
以一九一九一八 宇島島着	合ニ七 和十 島着	
和十島附近、警備	以一九二一、道中島着	
皇族中ニ参加	以一九二二、浦賀島着	
昭和十八年九月二日 歩兵第百七聯隊 勅令下		
昭和十八年十二月九日 編制改正		
歩百七 聯隊本部 三大隊 戰車隊一		
機附砲中隊一		
文隊 一大隊本部 一砲中隊三、砲兵中隊一、迫撃中隊一		
作業中隊一 (假編成中隊一、假編制迫撃砲隊一)		
砲兵中隊 BA 三 TA 六 作業中隊		
迫撃中隊 LM 一		
一砲中隊 一砲中隊三、M 小一、M 小一		
死傷一五%		
新編部隊		
作戦経過		
概要		
以一九二一 和十島着		
以一九二二 和十島着		
死傷一五%		
終戦(又至力)戦終了迄迄ノ状況	八月十五日 終戦、詔勅ヲ拜ス。状況不明ニ付現態勢ヲ以テ任務ヲ續行ス。米軍上陸正式調印戰時態勢ヲ解ク。爾後体力錬成職業補導教育、陣地復舊作業等實施現存中	帰還輸送ノ状況ヲテ併記ス
其他ノ参考事項	京都府	
備考	一名上陸地支局ハ各帰還浮休ヲ以テ本報告ヲ記載セシメテ復員省史実部ニ連送スルモノトス	

20.12. 第一

浦賀上陸地支局

昭和 年 月 日

史実調査参考資料報告

摘要	終戦時ノモ ノヲ記ス	職ノ変更及 五ノル参加 戦手名ヲ 記ス	所在 地	所在 地 ボナト島	所属部隊 ノ概要	所属部隊 ノ概要 支那軍 以降ノ於 自己ノ略 下	所屬部隊 ノ概要	所屬部隊 ノ概要 支那軍 以降ノ於 自己ノ略 下	所屬部隊 ノ概要	所屬部隊 ノ概要 支那軍 以降ノ於 自己ノ略 下
痛 要	終戦時ノモ ノヲ記ス	職ノ変更及 五ノル参加 戦手名ヲ 記ス	職官 中隊長 松本益吉郎	ボナト島	所属部隊 ノ概要 支那軍 以降ノ於 自己ノ略 下	所属部隊 ノ概要 支那軍 以降ノ於 自己ノ略 下	所屬部隊 ノ概要	所屬部隊 ノ概要 支那軍 以降ノ於 自己ノ略 下	所屬部隊 ノ概要	所屬部隊 ノ概要 支那軍 以降ノ於 自己ノ略 下

浦賀上陸地支局

(昭和二十年十一月二十一日)

史実調査参考資料報告

所在地	木下島	職官	中隊長 大尉 今村久信	摘要	終戦時ノモ ノヲ記ス
所屬部隊	歩一七聯隊	氏名		職ノ変更及 五ノル参加 戦手名ヲ 記ス	
支那事変 以降ニ於ケル 自己ノ略ノ 要	歩一七聯隊 歩一七二八 南京方面ニ於テ 歩一七二八 歩一七二九 歩一七三〇 歩一七三一 歩一七三二 歩一七三三 歩一七三四 歩一七三五 歩一七三六 歩一七三七 歩一七三八 歩一七三九 歩一七四〇		歩一七二八 南京方面ニ於テ 歩一七二九 歩一七三〇 歩一七三一 歩一七三二 歩一七三三 歩一七三四 歩一七三五 歩一七三六 歩一七三七 歩一七三八 歩一七三九 歩一七四〇		
所屬部隊ノ 編成年月日 及編制裝備 ノ概要	歩一七二八 歩一七二九 歩一七三〇 歩一七三一 歩一七三二 歩一七三三 歩一七三四 歩一七三五 歩一七三六 歩一七三七 歩一七三八 歩一七三九 歩一七四〇		歩一七二八 歩一七二九 歩一七三〇 歩一七三一 歩一七三二 歩一七三三 歩一七三四 歩一七三五 歩一七三六 歩一七三七 歩一七三八 歩一七三九 歩一七四〇	最終ノ所 屬部隊ヲ 五ニ尚其 ノ以テ所 屬部隊ノ 介テ之概記 ス	
所屬部隊ノ 戦經過ノ概 要	歩一七二八 歩一七二九 歩一七三〇 歩一七三一 歩一七三二 歩一七三三 歩一七三四 歩一七三五 歩一七三六 歩一七三七 歩一七三八 歩一七三九 歩一七四〇		歩一七二八 歩一七二九 歩一七三〇 歩一七三一 歩一七三二 歩一七三三 歩一七三四 歩一七三五 歩一七三六 歩一七三七 歩一七三八 歩一七三九 歩一七四〇		
終戦(天八五 力ノ戦ヲ終 了)ノ状況	歩一七二八 歩一七二九 歩一七三〇 歩一七三一 歩一七三二 歩一七三三 歩一七三四 歩一七三五 歩一七三六 歩一七三七 歩一七三八 歩一七三九 歩一七四〇		歩一七二八 歩一七二九 歩一七三〇 歩一七三一 歩一七三二 歩一七三三 歩一七三四 歩一七三五 歩一七三六 歩一七三七 歩一七三八 歩一七三九 歩一七四〇	帰還輸送 ノ状況ヲモ 併記ス	
歸還(天八連 送)ノ先	石川島				
其他ノ参 考事項	終戦後ハ其ノ 一ニテ...				

浦賀上陸地支局

(昭和二十年一月二十一日)

実地調査参考資料報告

所在地	所属部隊	職官	氏名	備考
南洋諸島ホノ ^ノ 島	歩兵第百七聯隊	迫妻第 ^ニ 中隊長	田中良祐	終戦時ノモ ノヲ記ス
支那事変 以降ニ於ケル 自己ノ略ヲ	迫妻第百七聯隊附 自昭和十七年四月 五日 昭和十八年十一月 昭和十九年十一月 昭和十九年一月	為ラホ ^ル 補充交代輸送 隊長 隊長 隊長	同島守備	職ノ変更及 ニ於テ参加 戦事名ヲ 記ス
所属部隊 編成年月日 及編制裝備 ノ概要	昭和十八年十一月十五日編成 指揮班 三ヶ小隊 定員百五十五名 観測具 三式砲隊鏡 五。極敏測鏡 通信器材 九二式電話器四 同種覆線四 九七式曲射砲 一二門 彈藥一門 七。發	最終ノ所 屬部隊ヲ 五ニ尚其 ノ以テノ所 屬部隊ノ 介ヲモ概記 ス		
所属部隊 戰經過ノ概 要	ホノ ^ノ 島守備 一ヶ小隊 第四中隊配屬			
終戦(又ハ主 力ノ戦ヲ終 了)後ノ状況	自活農園作業及訓練	帰還輸送 ノ状況ヲモ 併記ス		
備考(又ハ先 行事項)	山口縣			

浦賀工産地支局

(昭和二十年七月十七日)

実調調査参考資料報告

所在地		職官		備考	
所属部隊		氏名	階級		
支那事変以降、於テ自己、略テ		陸軍大尉	中隊長	職、変更及 テ、ル、加 戰、年、名、ヲ 記、ス	
所屬部隊、 編成年月日 及編制裝備 概要		中隊長 尚好			
所屬部隊、 概		昭和十九年九月、歩兵第三十五聯隊ニ應召 同年十月、津浦線上海、南京、徐州、 徐州、武漢、以テ参加、昭和二十年六月内地 歸還、同年七月、五年、解隊 昭和二十年八月、歩兵第三十五聯隊ニ特別、 小隊、歩兵第三十五聯隊、長、十、年、本、年、 昭和二十年九月、歩兵第三十五聯隊、 第一大隊、編成、裝備、 歩兵第四中隊、歩兵第三十五聯隊、 古、隊、編成、裝備、歩兵第三十五聯隊、 歩兵第四中隊、隊、編成、裝備、 小隊、第三十五聯隊、下、山、下、編成、人員、五、七、名、		最、後、所 屬、部、隊、ヲ 五、三、三、尚、其 以、テ、所 屬、部、隊、ノ 介、テ、モ、概、記 ス	
所屬部隊、 概		昭和十九年九月、本島、上陸、因島、警備、 自、昭和十九年一月、本島、嶋、心、ヨリ、 至、今、二十年八月、 築城、並、テ、防、衛、力、ヲ、修、補、シ、 至、今		現、地、自、活、作、業、 米、創、作、業、 休、育、訓、練	
終戦、又ハ主 力、戦、終 了、後、状、況		現、地、自、活、作、業、 米、創、作、業、 休、育、訓、練		帰、還、輸、送 ノ、状、況、ヲ、モ 併、記、ス	
帰、還、先		留、留、縣			
其、他、ノ、事、項					

歩兵第七師團一部 (五、四、三、二、一)

浦賀上陸地支局

(昭和 年 月 日)



史実調査参考資料報告

所在地	南洋群島和太島	職官	中隊長 陸軍大尉 小谷 覺	備考	終戦時ノモ ノヲ記ス
所属部隊	歩兵第七師團機砲隊	氏名	小谷 覺	職務変更及 其ノ他ノ事 ヲ記ス	終戦時ノモ ノヲ記ス
支那事変 以降ニ於ケル 自己ノ略下	自昭和六年六月ヨリ 至今年十月ヨリ 自昭和六年十月ヨリ 至今年十月ヨリ	機砲隊第一大隊 機砲隊第一大隊 機砲隊第一大隊	在リテ其ノ防衛 ニ在リテ其ノ防衛 ニ在リテ其ノ防衛	職務変更及 其ノ他ノ事 ヲ記ス	終戦時ノモ ノヲ記ス
所属部隊 編成年月日 及編制裝備 ノ概要	一、昭和十年十月十五日編成完了 二、總員 七十四名 三、九式高射機砲 六門 令上陸準備中	氏名	小谷 覺	職務変更及 其ノ他ノ事 ヲ記ス	終戦時ノモ ノヲ記ス
所属部隊 戦經過ノ概	和志島ニ在リテ其ノ防衛 ノ指揮下ニ在リテ其ノ防衛	氏名	小谷 覺	職務変更及 其ノ他ノ事 ヲ記ス	終戦時ノモ ノヲ記ス
終戦(又ハ主 力ノ戦終 了)ノ状況	終戦後、兵隊、弾薬、器材ヲ 歩兵第七師團第六大隊長 指揮下ニ在リテ其ノ防衛	氏名	小谷 覺	職務変更及 其ノ他ノ事 ヲ記ス	終戦時ノモ ノヲ記ス
帰郷(又ハ連 絡)ノ先	鳥取縣	氏名	小谷 覺	職務変更及 其ノ他ノ事 ヲ記ス	終戦時ノモ ノヲ記ス
其他ノ事 ノ事項		氏名	小谷 覺	職務変更及 其ノ他ノ事 ヲ記ス	終戦時ノモ ノヲ記ス

浦賀上陸地支局

(昭和二十年十二月二十五日)

史実調査参考資料報告

所在地 南洋廳 十ノ島

職官 歩兵第百七聯隊 第三大隊附 陸軍軍醫少尉 廣瀬 道隆

所屬部隊 歩兵第百七聯隊 第三大隊附 陸軍軍醫少尉 廣瀬 道隆

支那事変 昭和十八年八月一日 南洋廳 十ノ島 歩兵第百七聯隊 第三大隊附 陸軍軍醫少尉 廣瀬 道隆 職、変更 及主ナル参 加戦斗名 ヲ記ス

所屬部隊 歩兵第百七聯隊 第三大隊附 陸軍軍醫少尉 廣瀬 道隆

所屬部隊 歩兵第百七聯隊 第三大隊附 陸軍軍醫少尉 廣瀬 道隆

所屬部隊 歩兵第百七聯隊 第三大隊附 陸軍軍醫少尉 廣瀬 道隆

終戦後一般秩序ハ保タレ事故ハナレ。然レ利己的ナ言動カ見ラレ 此折カナル様ニシテ多ク輸送間ハ海軍及設隊五〇〇陸軍二五〇名ヲ 成ル。我々互ニ幹部、初親シ兵同志モテ故ナク秩序軍紀保持ハ 維持サレシ。

石川縣

浦賀上陸地支局
史実調査参考資料報告

(昭和二十年八月二十五日)

摘要

所在地 土南坪。ホ十(馬)
職官 陸軍中尉
氏名 藤野大郎
終戦時、モリヲ記ス

支那事変 職、変更
以降、於ケ 及主ナル参
心自己、略 加戦斗名
歴 ヲ記ス
中支、南昌孔江附近 野戦五期、一中隊
青支、廣東地方、翁博作、南寧作、我
宜陽作、我、印國境作、我、南寧、縮、作、我

所屬部隊 野戦五期、一中隊 昭一三九一
ノ編成年 昭一三九一
月日及編 昭一四二一
制裝備 昭一四二一
ノ概要 昭一四二一
野戦五期、一中隊、昭一三九一
昭一四二一、昭一四二一、昭一四二一
昭一四二一、昭一四二一、昭一四二一
昭一四二一、昭一四二一、昭一四二一
昭一四二一、昭一四二一、昭一四二一

所屬部隊 野戦五期、一中隊
ノ編成年 昭一三九一
月日及編 昭一四二一
制裝備 昭一四二一
ノ概要 昭一四二一
野戦五期、一中隊、昭一三九一
昭一四二一、昭一四二一、昭一四二一
昭一四二一、昭一四二一、昭一四二一
昭一四二一、昭一四二一、昭一四二一
昭一四二一、昭一四二一、昭一四二一

終戦(又ハ 歸還輸送
主カノ戦斗 ノ状況ヲモ
終了)後、 併記ス
状況

歸郷(又ハ 歸郷(又ハ
連絡)名 行先不定(系ハ、煤失、者)

其他ノ参 考事項

番号 109 部

21.1.1

(昭和二十年三月二十五日)

浦賀上陸地支局 史実調査参考資料 報告

所在地	本ノハ島	職官 中隊長代理 佐野大尉	摘要
所屬部隊	歩兵第七聯隊	氏名 鳥居大尉	終戦時ノモヲ記ス
支那事変以降ニ於テハ自己ノ略歴	<p>昭和三十四年四月 臨時召集ノ歩兵第七聯隊補給隊ニ任命 同日同隊附任付 昭和三十五年 歩兵第七聯隊附被仰付 昭和三十六年 金州方面ノ進軍及南滿州方面ノ進軍ニ参加 昭和三十七年 奉天方面ノ進軍ニ参加 昭和三十八年 遼寧方面ノ進軍ニ参加 昭和三十九年 遼寧方面ノ進軍ニ参加 昭和三十九年 遼寧方面ノ進軍ニ参加 昭和三十九年 遼寧方面ノ進軍ニ参加 昭和三十九年 遼寧方面ノ進軍ニ参加</p>		
所屬部隊ノ編成年月日及編制整備ノ概要	<p>一 編成年月日 昭和十八年三月十日 二 編成整備ノ概要 八 中隊長以下 二一五名 二 指揮班 一級隊三ノ隊 檢閲班一ノ隊(二班) 自衛隊一ノ隊</p>		
所屬部隊ノ作戰經過ノ概要	<p>自昭一九三二 遼寧方面ノ進軍ニ参加 至昭一九三三 遼寧方面ノ進軍ニ参加 自昭一九三三 遼寧方面ノ進軍ニ参加 至昭一九三五 遼寧方面ノ進軍ニ参加</p>		
終戦(又ハ主力ノ戦斗終了)後ノ状況	<p>終戦後ハ主トシテ軍紀風紀ノ確立 保育ニ重点ヲ置キ 部下ノ指導 監督ノ體カノ増進ヲ見 軍紀風紀ハ一般ニ良好ニ維持セラレタリ 輸送向ニ於テ軍紀亦良好ナリ</p>		
歸郷(又ハ連絡)先	<p>長野縣</p>		
其他ノ参考事項	<p>自昭 東支第七師団正北隊四四九ニシテ戦死ス</p>		